

小学校 1年 算数科

考える × 話す・聞く 書く

育成したい国語力

分からない点について尋ねる。「わけ」を明らかにしながら、話す。「わけ」を明らかにしながら、書く。

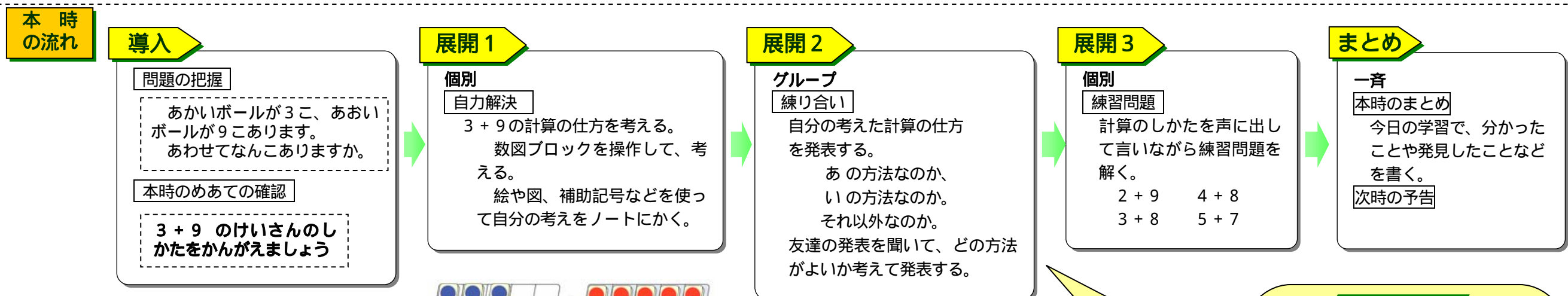
分からないこと、尋ねたいことに気付きながら聞く。「わけ」を聞き取る。

単元名 「たし算」(1位数)+(1位数)>10

- ### 本時の目標
- 10のまとまりを利用した計算方法を工夫することができる。(数学的な考え方)
 - 被加数が5以下の計算が正確にできる。(表現・処理)

国語力育成の視点

低学年では、学習に対する構えを確実に定着させることが重要です。とりわけ、聞く時・話す時の約束事を適切に指導し、習慣化することが国語力を育成していく上でのポイントとなります。算数科には、どの時間にも必ず、自分で考え操作する場面があります。それらを単に個人内の活動に終わらせるのではなく、「書き、話し、聞く」ことを学習過程に適切に位置付けてコミュニケーションを図ることで、学習内容への理解は深まります。そして、算数科のねらいの達成と考える力の育成につながると考えられます。



視点①

ノート指導の工夫

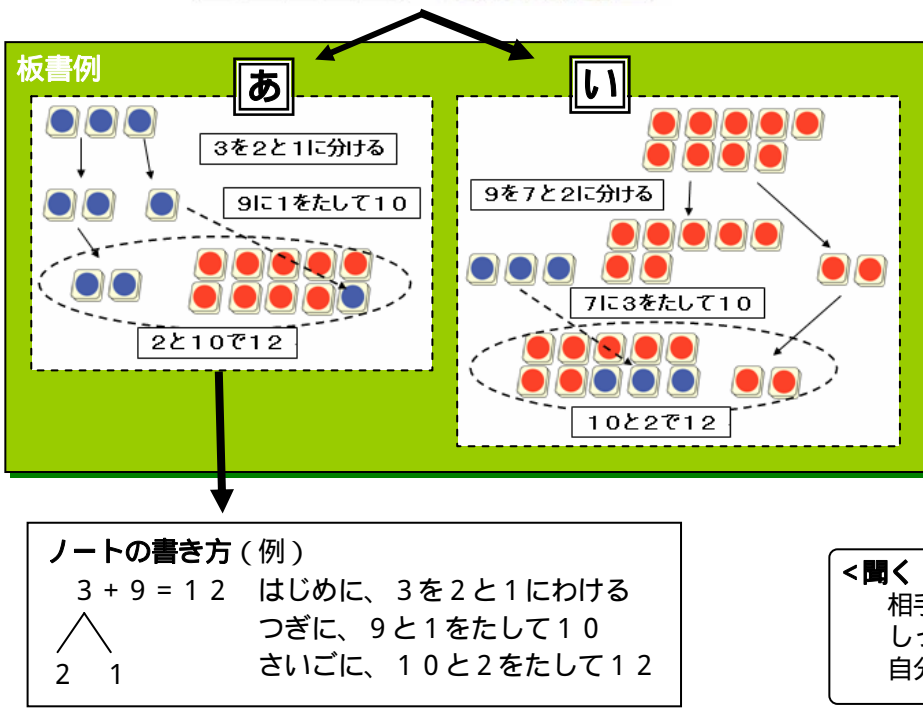
自分の考えを文や図に表すことのできない児童には、次のような背景があります。

何を書いてよいか分からない
どう書いてよいか分からない

そこで、計算の仕方を説明できる力を育てるためのノート指導が大切です。言葉での説明を文字にすることに慣れさせる

例：補数の学習
1と9で10……

例：たし算の説明
7 + 4 = 11
はじめに4を3と1にわけるときに、7と3をたして10
さいごに、10と1をたして11



視点②

学習のしつけ(学習規律)

児童が活発な話し合いをするためには、どの子も自分の考えを安心して発表できる環境作りが大切です。そのためには、子ども達に最低限の約束事を示すことが必要です。友達は、もし自分の考えが間違っても笑わない。分からない時は、親切に説明してくれる。そんな安心感に支えられ、発表が活発になり、話し合いが成立し、考える力の育成が可能となると言えます。

<聞く・話す時の約束(例)>

相手をよく見て聞く	友達を見て話す
しっかり最後まで聞く	最後まできちんと話す
自分の考えと比べて聞く	意見とそのわけを話す

視点③

児童が活発な話し合いをするためには、どの子にも「聞く力」と「話す力」を育てることが必要です。

聞く力を高める発表の仕方の指導

何人かの児童に、友達の意見を復唱させることで、集中して聞く習慣が次第に育ってくる。発表する者は、自分の考えが前の発表者の意見と同じなのか違うのかをまずはっきりさせ、それはどの点なのかを発表するように指導する。

聞き手を意識した話す力を高めるために、話し手の途中で「ここまではいいですか」など、短く区切って話すことや聞き手の反応を確かめながら話すことを指導する。

聞き手を意識した話し方や、友達の考えとつながりのある発言は、すぐに取り上げ、具体的にそのよさを評価することで、話し合いへのモチベーションを上げる。